

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員

宮崎 一徳

NO1

実施月日	令和元年5月14日			
実施時間	10時00分～11時30分			
調査先	釜石市役所			
調査所在	釜石市只越町3丁目9番13号			
調査の目的	【講義】防災教育について			
調査先担当者	釜石市総務企画部総合政策課震災検証室長 臼澤 渉氏			
内容・結果等	<input checked="" type="radio"/> 東日本大震災の検証 (1) 三陸沿岸は、津波の常襲地帯である。 明治三陸地震津波(犠牲者6,687人)、昭和三陸津波(犠牲者164人、行方不明240人) (2) 震災検証の考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災 1000人余りの生命が失われる悲劇 ・ 先人の「教訓」は、なぜ生き残ったのか? ・ 繰り返された津波の悲劇から何を学び何を未来に生かすのか。 ・ 未来に伝える「教訓」の明確化 (3) 震災検証の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大地震検証委員会で「情報通信などの対応状況・問題点の整理(平成23年度)」、「避難行動に関する証言等の取りまとめ・分析(平成25年度)」、「災害対策本部・学校・避難所などの対応状況・課題整理・原因分析(平成26年度)」、「災害対策本部などの再精査(平成27年度)」 ・ 東日本大震災 釜石市教訓集「未来の命を守るために」を市民の証言(1,690人)、検証結果による課題・方向性(566項目)をもとに「市民向けの教訓に集約」 <ul style="list-style-type: none"> ① 命を守るための行動(いざという時は想定にとらわれず、最善を尽くせ。率先避難者たれ。) ② 避難所生活で命をつなぐ(津波から逃れても、長期避難生活が待っている。命をつなぐために、必要なものを備えておく。) ③ 命を守るための備え(それぞれの地域で、個別具体的に十分検討し、備え、実践を積み重ねる。) ④ 津波の記憶を未来へ伝える(自然の恵みを享受し、豊かな持続させるためにいたずらに海を恐れず、十分に備え、記憶を伝えていく) (4) 防災市民憲章～震災の教訓を市民の誓いに <ul style="list-style-type: none"> ・ 震災の悲劇を二度と繰り返さないため、釜石の地で安全な暮らしを続けるために 			
	上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 (円)
		旅費		38,310
		宿泊費		16,832
		合 計		55,142

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員

宮崎 一徳

NO2

内容・結果等	<ul style="list-style-type: none"> 震災から学んだ教訓を生かす みんなで誓い合う(市民が災害に対して主体的に取り組む行動の道しるべ) <p>(5) 釜石市防災市民憲章</p> <p>「備える」 災害は ときと場所を選ばない。 避難訓練が 命を守る。</p> <p>「逃げる」 何度でも ひとりでも 安全な場所に いちはやく。 その勇気は ほかの命も救う。</p> <p>「戻らない」 一度逃げたら 戻らない 戻らせない。 その決断が 命をつなぐ。</p> <p>「語り継ぐ」 子どもたちに 自然とともに在るすべての人に 震災から学んだ生き抜く知恵を 語り継ぐ。</p> <p>(6) 震災メモリアルパークの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本理念 津波による犠牲をなくし、未来の命を守るために震災を後世に伝え、悲劇が繰り返されないまちづくりを発信する <p>(7) いのちをつなぐ未来館</p> <p>「防災学習」 防災学習のためのプログラム開発、語り部や各種団体による防災学習活動、防災に関連する体験会の実施</p> <p>「資料保管」 被災当時の状況を学習、体感できる各種資料の保管</p> <p>「情報発信」 防災にす関連する様々な情報や地域イベント情報の発信</p> <p>【まとめ・感想】 釜石市は最大9万人の人口を擁していたが鉄冷えが進み、現在人口3万3千人まで落ち込んでいる。震災後10年での復興を目指し、子どもたちに夢を与えるラグビーワールドカップを招致するなど未来に向けての視点で鋭意復興に取り組んでいる。また、東日本大震災での犠牲者は学校関係の児童・生徒は0人と学校での防災教育の命を守る教育が効果的に表れている。その中でも午前中に授業が終わり海辺で遊んでいた児童が警報とともに高台に避難したことは、防災教育が徹底されていることを感じた。また、当時高校生だった語り部の女性が未来の命を守るため震災の状況を伝え、悲劇を繰り返さないまちづくりに邁進する姿に感動を覚えた。</p>		
	経費の内容	支 払 先	金額(円)
	旅費		
	宿泊費		
	合計		0
	上記活動に要した経費		

※ 裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に貼付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員

宮崎 一徳 NO3

実施月日	令和元年5月15日		
実施時間	8時30分～10時30分		
調査先	石巻市役所福祉部生活再建支援課課長 三浦義彦氏、総務部危機対策課 武山壮氏		
調査所在	石巻市殻町14番1号		
調査の目的	【講義】石巻市被災者自立再建促進及び防災対策拠点について		
調査先担当者	石巻市役所福祉部生活支援課課長 三浦義彦氏、総務部危機対策室 武山壮氏		
内容・結果等	1 石巻市被災者自立再建推進プログラム <input type="radio"/> 応急仮設住宅に入居中の世帯には住まいの再建先が決まらない世帯も多く、様々な課題を抱えた方の支援が急務。一方、各種支援により移転進みが、仮設団地入居率は低下。 <input type="radio"/> 被災された全ての方が一日も早く希望の持てる生活が送れるよう、現状と課題を整理し、再建自立支援に向けた具体的な支援を実施。 (1) 「住まい」の再建を実現するための再建意向未決定世帯への支援 ① 再建意向が未決定の「自立計画届出書」による再建計画の確定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 応急仮設住宅は仮の住まいであり、早期に再建先を決定する必要がある。 ・ 再建方法未決定世帯には自立計画届出書を受け、再建方法、時期等の具体的な内容把握。 ・ 自立計画届出書により仮設入居中の自立再建のため、市の支援策を決定。 ② 再建意向決定のための支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 再建意向にお困りの方や手続き支援が必要な方には、自立生活支援員が個々に訪問し情報提供や書類作成の支援。 ③ 自立再建が困難な世帯への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問等による状況把握や相談をしながら、個別ケースごとに自立再建や今後の生活に必要な手続き支援を実施。 		
	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 (円)
	旅費		
	宿泊費		
	合 計		0

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議會議員

宮崎 一徳

N04